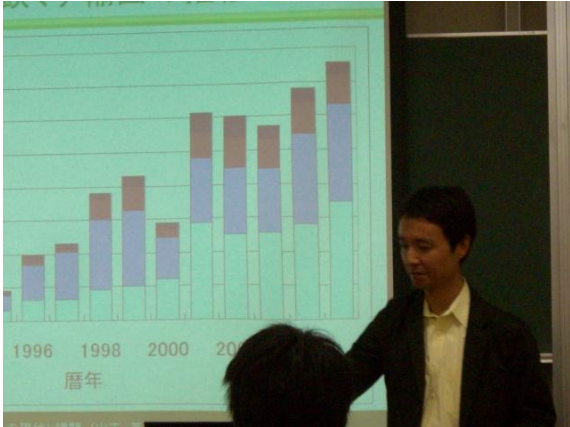


2007年11月12日(月)

<国際リサイクルの現状と課題>

山下英俊先生(一橋大学大学院経済学研究科専任講師) / 一回目

講義要約



循環系社会の構築のためには、まず現状のリサイクルの構造を知る、つまり物の流れ、マテリアルフローをおさえる必要がある。その上で、そのフローに関わる人と、お金の流れを把握することが重要だ。このようなアプローチで、国際リサイクルのメカニズムを見ていく。

リサイクルの国際化は国同士の利益というマクロな視点と、再生資源ブローカーの利益というミクロな視点から説明できる。具体的には、日本から中国やタイといった途上国への再生資源輸出は両国の需要を満たし、互いの利益となる。またブローカーにとっては低品質のものを先進国から買い取り、途上国に売ると、より利益が出るわけである。

しかし一方でリサイクルの国際化は、低品質の再生資源の選択輸出による「公害輸出」を招き、その規制も半ば骨抜きとなっている。国際リサイクルの実態を踏まえた上で、規制ではない対策が現在求められている。